

学位論文審査の結果の要旨

氏名	Cristhian Fernandez Villarroel (クリスティアン・フェルナンデス・ビヤロエル)
審査委員	主査 松田 敏信 ⑩ 副査 古塚 秀夫 ⑩ 副査 石田 章 ⑩ 副査 佐藤 俊夫 ⑩ 副査 糸原 義人 ⑩
題目	An Empirical Study on the Trade of South American Soybean Commodities (南米産大豆および大豆油貿易に関する実証研究)
審査結果の要旨 (2,000字以内)	
<p>南米諸国は大豆および大豆油など大豆関連産物の輸出国として国際市場における重要な地位を占めており、しかも急速にそれらの生産と輸出を拡大している。しかし、こうした事実に対する従来の研究は定性的な事例分析が大部分であり、データに基づいた計量的評価や統計的検証は十分ではなかった。本学位論文の目的は、南米産の大豆および大豆油の国際貿易について、輸出国の競争性と比較優位性を明らかにすることである。</p> <p>本学位論文は6章からなり、各章の表題は以下のとおりである。</p> <p>第1章: Introduction 第2章: Economic Trend 第3章: Demand Analysis 第4章: International Competitiveness 第5章: Flying Geese 第6章: Conclusions</p> <p>まず第1章は、序章として本学位論文の背景、問題意識、および分析方法を概観している。</p> <p>第2章は、南米諸国の大豆および大豆油貿易を取り巻く現状を、統計データを用いて記述的にまとめている。バイオ燃料生産との関連も視野に入れながら、第3章以下の計量分析への導入となっている。</p> <p>第3章は、需要体系モデルを用いて、国際穀物市場における南米産のトウモロコシと大豆に対する近年の需要を計量的に分析している。2005年に公布された米国エネルギー政策法において、バイオエタノールの使用が義務づけられた。その後のバイオエタノール・ブームにより原料のトウモロコシの価格が高騰し、さらにトウモロコシへ作付け転換された大豆の価格もまた高騰している。</p>	

こうした背景を踏まえ、本章では需要体系モデルにより、トウモロコシと大豆それぞれについて、2005年エネルギー政策法公布前後の国際需要パターンの変化を分析している。具体的には、それぞれの穀物について、主要産地であるアルゼンチン、ブラジル、および米国産の間の代替・補完関係の変化に注目している。分析の結果、トウモロコシでは、アルゼンチン産が奢侈財としての性格を強め、米国産が奢侈財から必需財へ変化していることを明らかにしている。一方、大豆では、ブラジル産が必需財としての性格を強め、米国産が奢侈財としての性格を若干強めていることを明らかにしている。

第4章は、大豆および大豆関連産物の輸出市場における南米諸国の競争性と比較優位性を実証的方法によって評価している。南米のアルゼンチン、ボリビア、ブラジル、パラグアイは大豆関連産物の国際貿易において重要な地位を占めており、輸出市場において首位の米国のシェアを侵食しつつある。本章の分析の結果、米国、アルゼンチン、ブラジルが支配的な市場シェアを占めるなかで、ボリビアやパラグアイといった市場シェアの小さい輸出国の競争性は着実に向上していること、またボリビアの比較優位性は未加工品から付加価値の高い加工品へとシフトしていること、さらに比較優位性の指標が最も高いのはパラグアイであるが、ボリビアは大豆粕と大豆油の比較優位性が非常に高いことを統計的に示している。

第5章は、雁行形態論を援用することによって、ボリビアの輸出農産物生産の発展段階を統計的に把握している。具体的には、労働集約的で付加価値の低い大豆が比較優位を失う一方で、技術集約的で付加価値の高い大豆油や大豆粕が比較優位を獲得していることを明らかにしている。

第6章は、各章の分析結果を要約し、本学位論文全体の結論を述べるとともに、分析対象の将来展望にも触れている。

以上述べてきたように、クリスティアン・フェルナンデス・ビヤロエル氏の学位論文は、南米産の大豆および大豆油の国際貿易に関する3編の独立した論文（第3, 4, 5章）からなる本論、および序論（第1, 2章）と結論（第6章）より成り立っている。本論を構成する第3, 4, 5章の基礎となった論文は、すでに松田敏信、古塚秀夫との共著として以下の査読つき学術誌に公刊あるいは近刊となっており、いずれも学術的に十分なレベルに達していると評価することができる。

第3章: 農業生産技術管理学会誌 15: 140-151, 2009.3

第4章: 農林業問題研究 45: 27-32, 2009.6

第5章: 農業経営研究 47, 2009.9 (印刷中)

もっとも本学位論文が現状において完全というわけではなく、一部その厳密性に不十分な点も残されている。しかし、それらの点は本学位論文の基本的な価値を損なうものではなく、この方面での同氏の今後の精進に期待することとした。以上のことから、われわれ審査委員一同は、クリスティアン・フェルナンデス・ビヤロエル氏の学位論文「An Empirical Study on the Trade of South American Soybean Commodities」が博士（農学）の学位に十分に値すると判断する。